

立候補者の第一声(右から届け出順)

4新人の争い 茨木市長選告示

1日告示され、無所属新人4氏が立候補した茨木市長選。前市議で大阪維新の会にはらま支部副支部長の木本保平氏(67)「みんな

茨木市議補選 届け出順 (1-4)

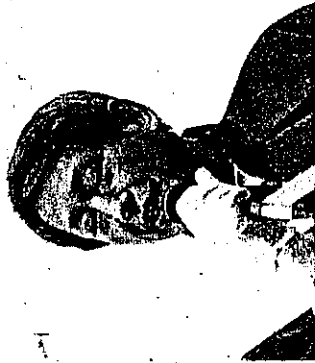
- 大嶺さやか 40共新 党地区委員・上穂
- 長谷川 浩 49無新 維新副支部長・春日
- 中森 朝雄 70無新 薬剤師・大池
- 辻 由起子 38自新 NPO法人理事・真砂



木本保平氏 (67)

無新団

前茨木市議・維新副支部長(自民党茨木支部長・清掃会社社長) 関大文



山下慶喜氏 (59)

無新団

前茨木市議・新社会党本部委員長(衆院議員秘書・病院職員) 同大法



桂睦子氏 (43)

無新

前茨木市議(地方議員団体共同代表・服飾メーカー会社員) 大体大体育中退



吉野宏一氏 (44)

無新

医師(整形外科診療所経営・病院勤務・肢体不自由児施設勤務) 金沢医科大学

「市役所ぐるみ」政治変える

40年間続いてきた「茨木市役所ぐるみ」の政治を根底から変えるため、維新からの出馬を決意した。市役所のための政治ではなく、市民のための政治を必ずやってみせる。まず公務員制度改革。市

比でまだまだ高い。給与の10%を減らすことで15億円を削減し、それを活用して、市民の生活に還元する。目標は、茨木の地域内総生産をこの4年間で2倍にすること。そのポテンシャルは府内では茨木だけにあると信じている。

「維新」の強権政治認めない

橋下徹・大阪市長による職員へのアンケートは強権的なり方。教育に関する条例にしても橋下氏個人の考えを徹底させているだけだ。そんな「維新」の強権政治を認めるわけにはいかない。

のが市長の使命。放射能に汚染された農産物が食べられず、甲状腺がん対策のため安定ヨウ素剤を子供たちに配布するのに必要な費用は30万円。これを拒否する市政は認められない。最直に一生懸命働いても報われない99%の市民のために働きたい。

「市民力」と「地域力」生かす

市議を務める中で、政党などの対立軸を超え、茨木をよりよき街にするという新しい形の人と人とのつながりを作ってきた。対立する人の意見も耳を傾ける政治スタイルを貫きたい。大企業の撤退はあったが

大震災で、真に役立つのは「地域力」。市民の力、地域力をきちんとコーディネートできる市役所にした。強権的ではなく、市民が参加できて対話でき、住んでよかったと言えるまわりの職員が動いてよかったと思える役所を目指す。

よりよい専門医療提供する

茨木市は、地元で中核病院の役割を果たす医療機関を、公立病院ではなく準公立の病院に頼ってきた。その結果、市内では30%の救急患者しか受け入れることができず、ほとんどが市外に搬送されているのが現状

不足の解消を図るとともに、医療技術を次世代に継承していきたい。公務員制度改革については、単に給与を削減するだけではなく、従来の評価方法を変更して各部署に能力主義を導入し、客観的な基準で公平な査定を行うようにしたい。

え、震災がれきの受け入れを反対する署名活動に合流。午後は各地で街頭演説を精力的にこなした。

桂氏は、阪急茨木市駅西口のロータリーで支持者らを前に第一声。このあと選挙カーで市内をぐるぐる回り、スポット演説をくり返した。夕刻に再び回車前で街頭演説をしたあと、夜は集会を開き主張を訴えた。

出陣式に臨み、大勢の支持者らを前に第一声を放った。議員辞職に伴う市議補選(次員1)も告示され、4人が立候補を届け出た。

木本氏は、茨木神社で必勝祈願のあと出陣式。松浪健太・衆院議員や倉田哲郎・箕面市長らが駆けつけ「厳しい戦いだが絶対に勝つ」と激励。市内全域を選挙カーで回り、夜には個人演説会を2カ所で行った。山下氏の出陣式は、阪急茨木市駅前でされた。このあと午前中は支持者ら6人と握手しながら支持を訴

り、JR茨木駅前のロータリーで第一声。元患者らがボランティアを務める中、「家族みんなが安心して受けられる医療の確立を」と訴えた。このあと選挙カーで市内全域を回り、支持を呼びかけた。投票日はいずれも8日。3月31日現在の選挙人名簿登録者数は21万9759人(男性10万6143人、女性11万3616人)。

各議の見方氏名、年齢、公認政党、現所属の別。肩書(経歴)、現住所、最終学歴一の順。四角囲み文字は推薦、支持政党。年齢は投票日基準の満年齢